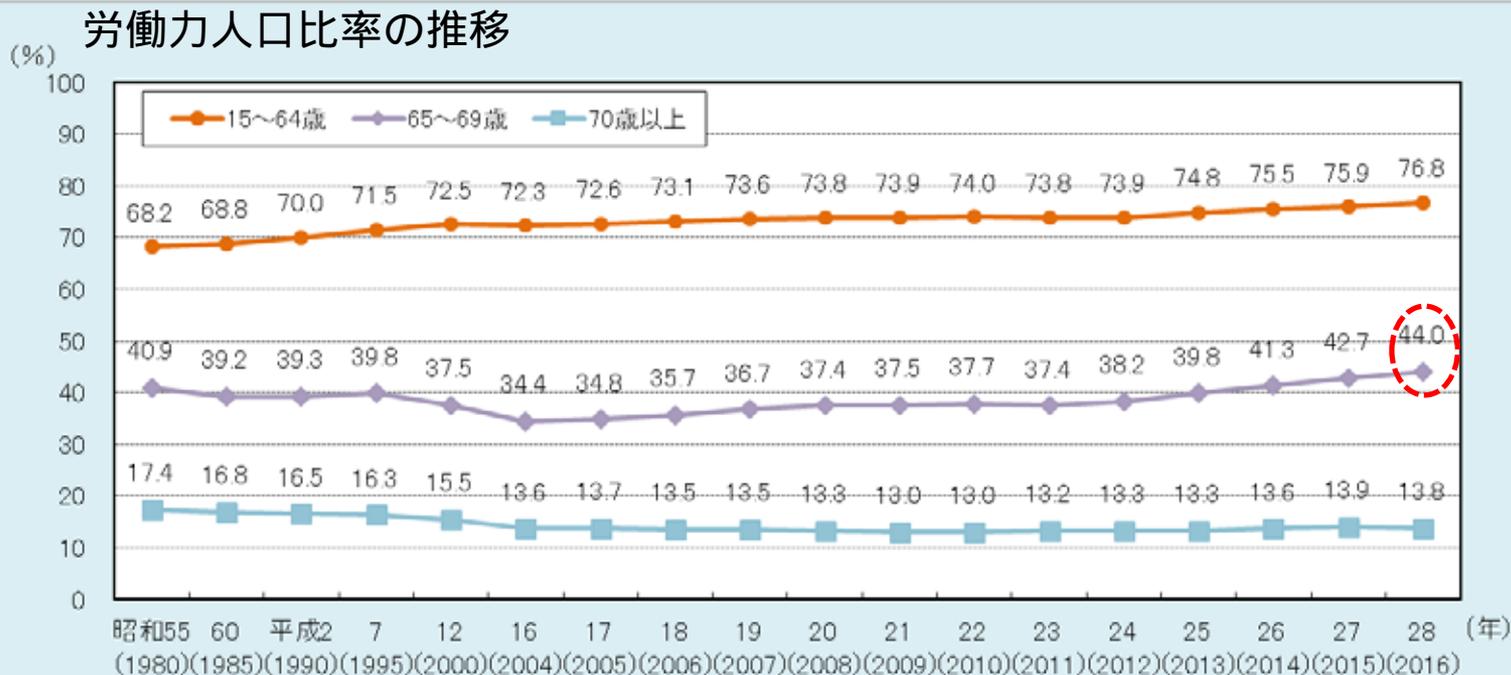


< 高齢者の就業・社会参加 >

65～69歳の労働力人口比率(人口に占める労働力人口の割合)は上昇
 現在就業している60歳以上の者のうち、約8割が「70歳くらいまで」以上又は「働ける
 うちはいつまでも」働きたいと回答している



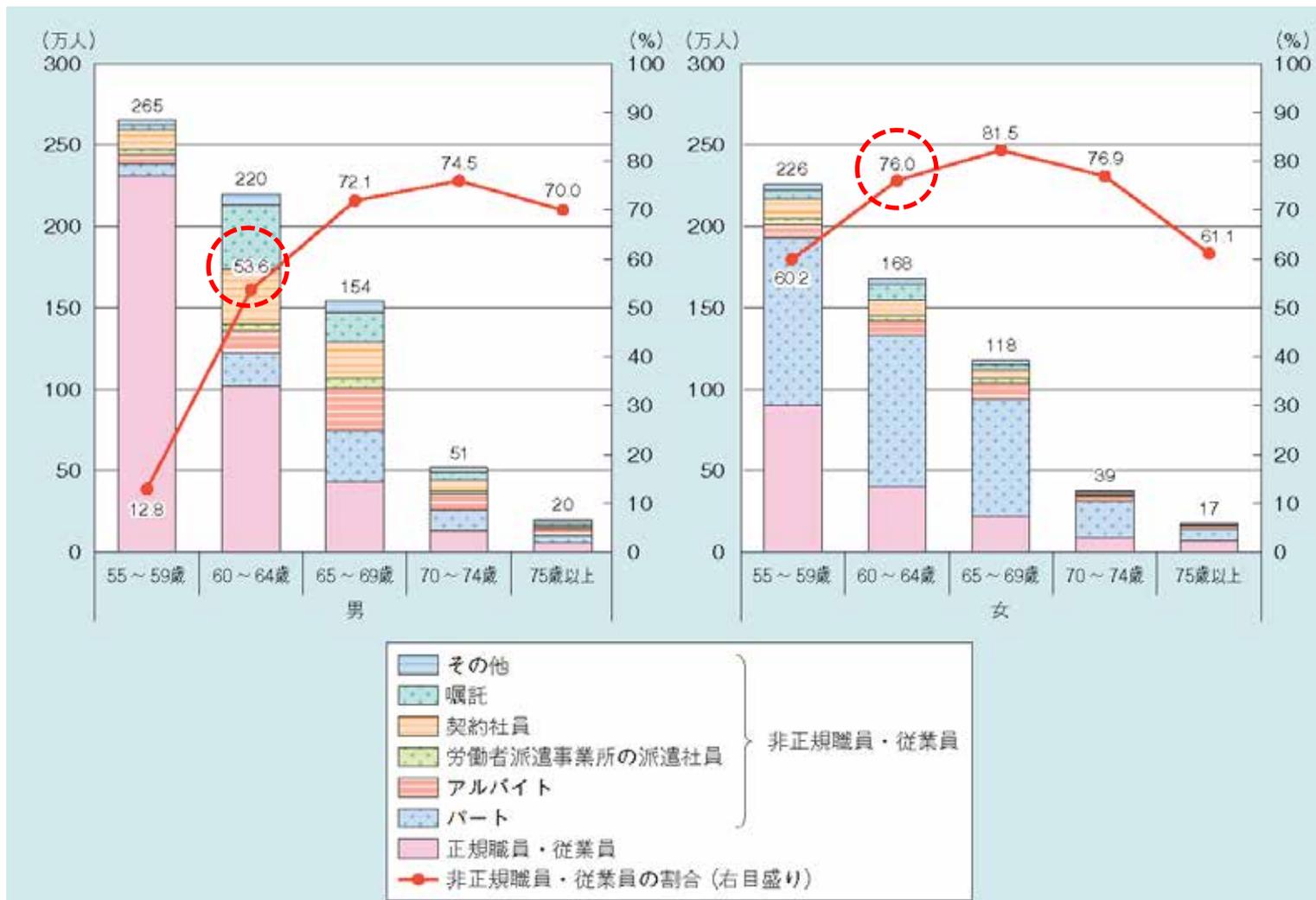
就業希望年齢(現在仕事をしている者のみの再集計)



< 高齢者の就業・社会参加 >

高齢者の継続雇用は進んでいるが、非正規職員・従業員の割合が高い

性年齢別雇用形態別雇用者数及び非正規雇用者率(役員を除く)

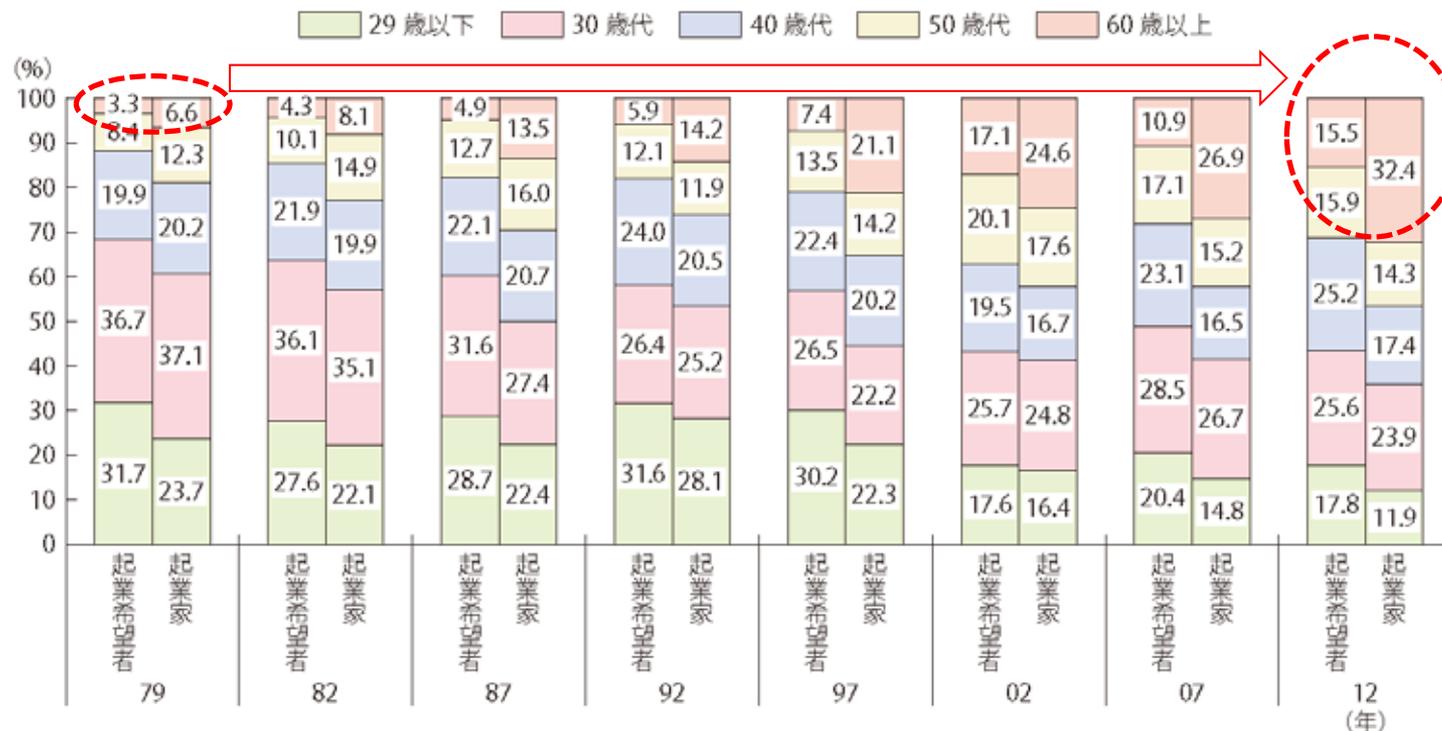


資料：総務省「労働力調査」(平成28年)

< 高齢者の就業・社会参加 >

起業希望者及び起業家の推移を年齢別に見ると、60歳以上の割合は年々高まっている。シニア層は若者に比べて自己資金が豊富であり、社会経験を蓄積している。シニア層は起業の動機が明確であり、かつ、その意欲も高いと推察される。

起業希望者及び起業家の年齢別構成の推移



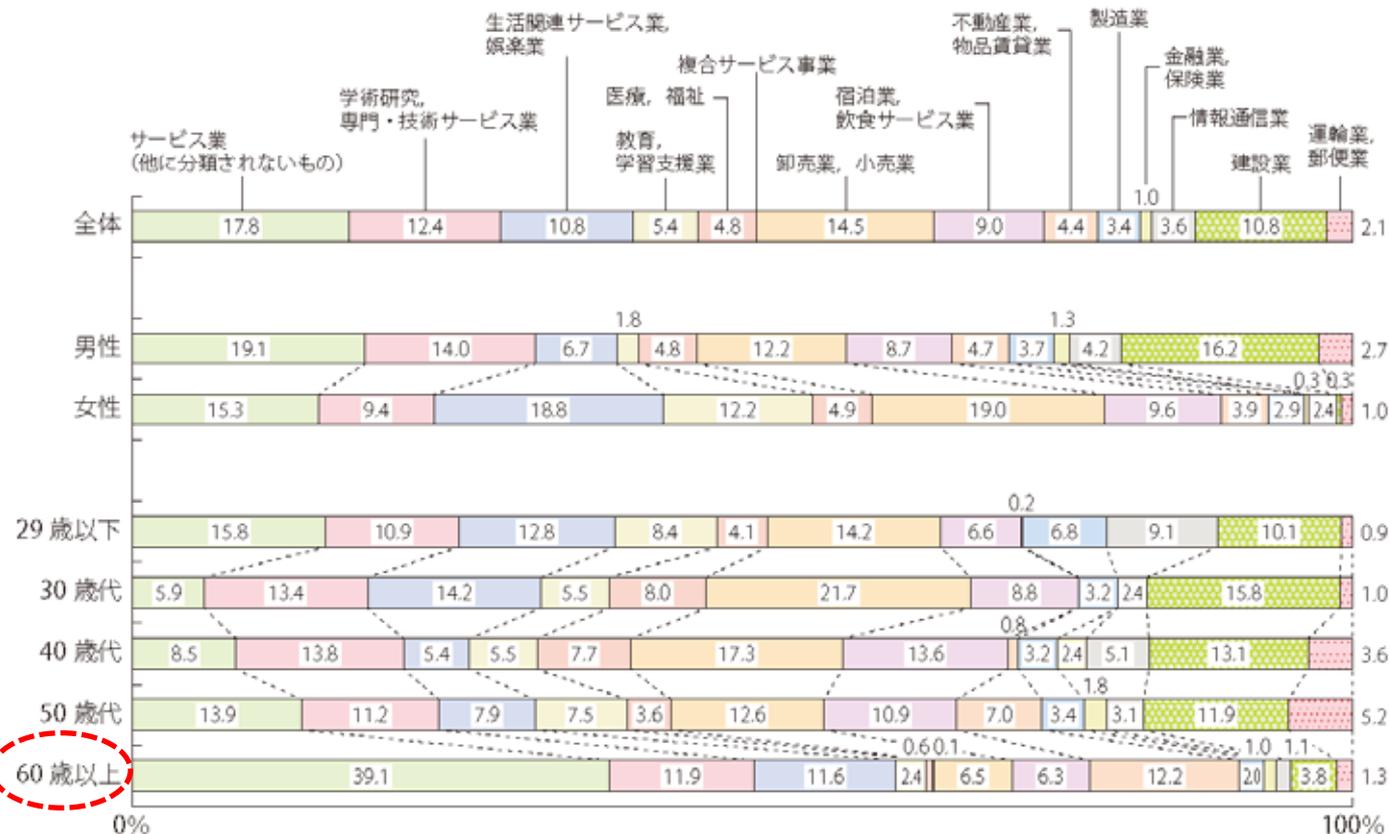
資料：総務省「就業構造基本調査」再編加工

- (注) 1. ここでいう「起業希望者」とは、有業者の転職希望者のうち、「自分で事業を起こしたい」、又は、無業者のうち、「自分で事業を起こしたい」と回答した者をいう。
2. ここでいう「起業家」とは、過去1年間に職を変えた又は新たに職についた者のうち、現在は自営業主（内職者を除く）となっている者をいう。

< 高齢者の就業・社会参加 >

60歳以上の起業家については、他の年代と比較して「サービス業」の割合が高い。一方で、「卸売業、小売業」や「情報通信業」は他の年代よりも割合が低い。

性別及び年齢別の起業分野



資料：総務省「平成24年就業構造基本調査」再編加工

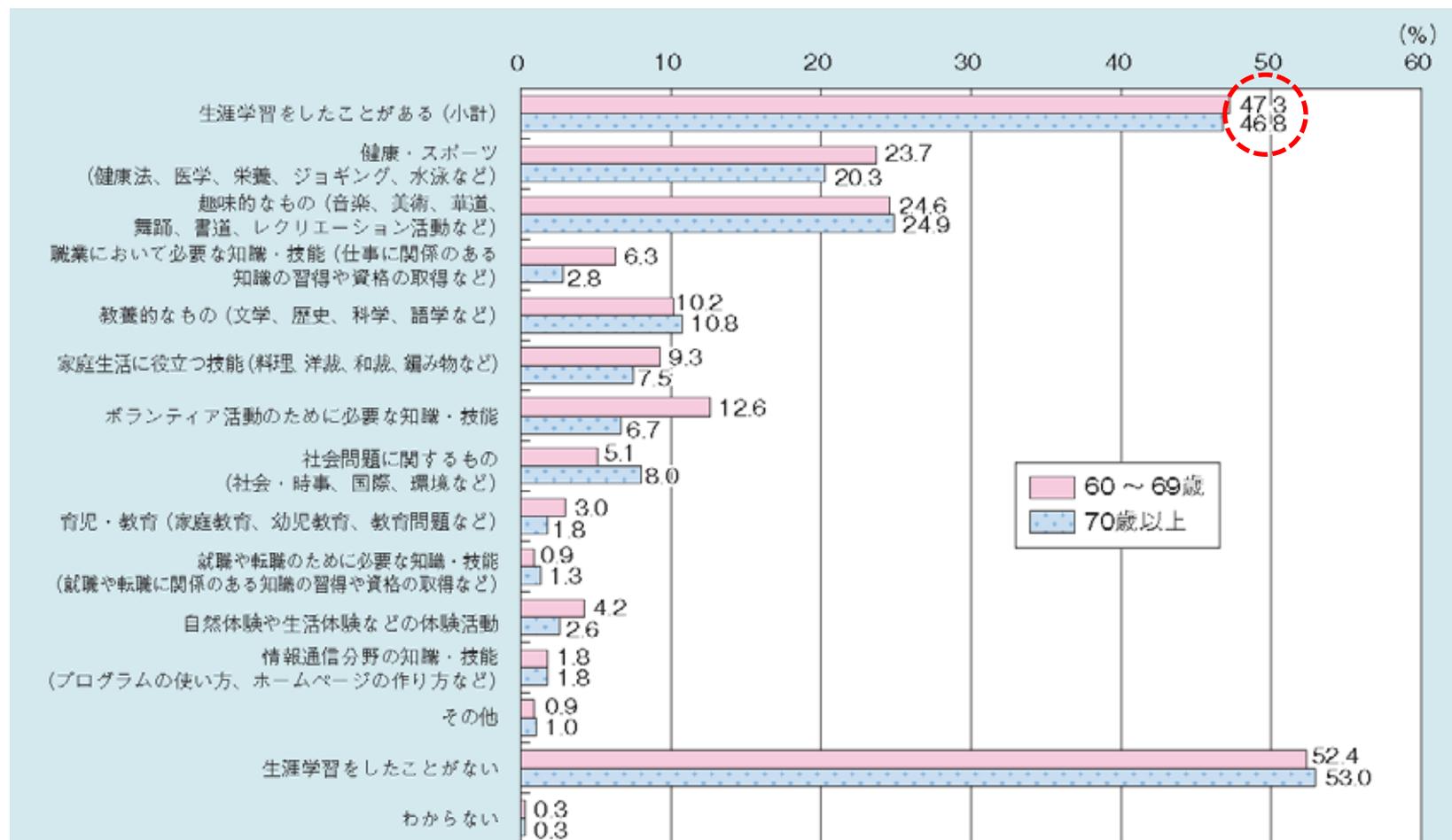
(注) ここでいう「起業分野」とは、過去1年間に職を変えた又は新たに職についた者のうち、現在は自営業主(内職者を除く)となっている者が就業している産業分野をいう。

「中小企業白書2014」より

< 高齢者の就業・社会参加 >

生涯学習をしたことがある高齢者は5割近く、内容は「趣味的なもの」、「健康・スポーツ」が多い

高齢者が行っている生涯学習(複数回答)



資料：内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」(平成27年)

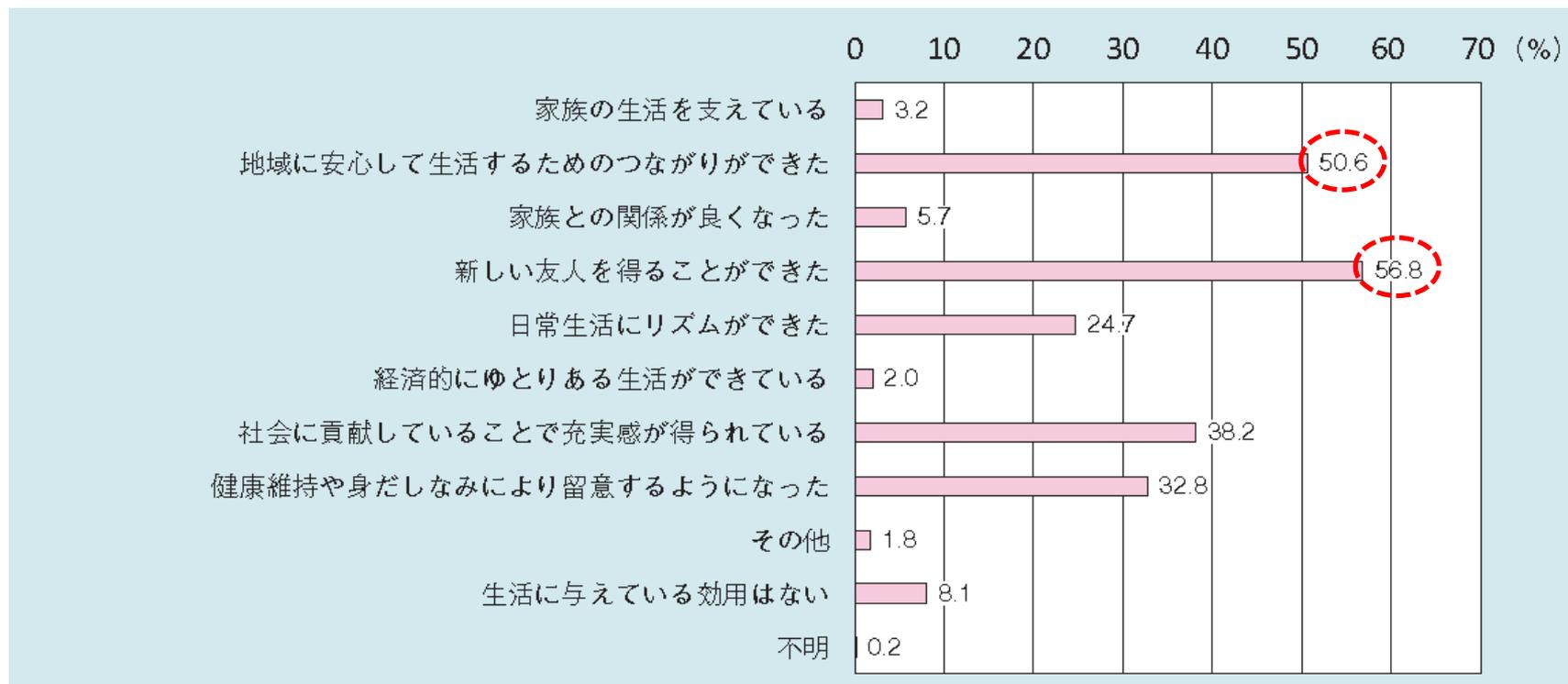
(注) 調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者であるが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

< 高齢者の就業・社会参加 >

社会的な活動()をしていてよかったと思うことについて、「新しい友人を得ることができた」や、「地域に安心して生活するためのつながりができた」が多い

()ここでの、社会的な活動とは、グループや団体、複数の人で行っている社会や家族を支える活動のこと。活動内容が社会や家族を支える活動であっても、単なるご近所づきあいによるものは含まない。

社会的な活動をしていてよかったこと(複数回答)



資料：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」(平成28年)

(注1) 全国の60歳以上の男女個人が対象

(注2) 回答条件は社会的な活動をしている者

(注3) 複数の活動をしている場合は、最も力を入れている活動について回答している。

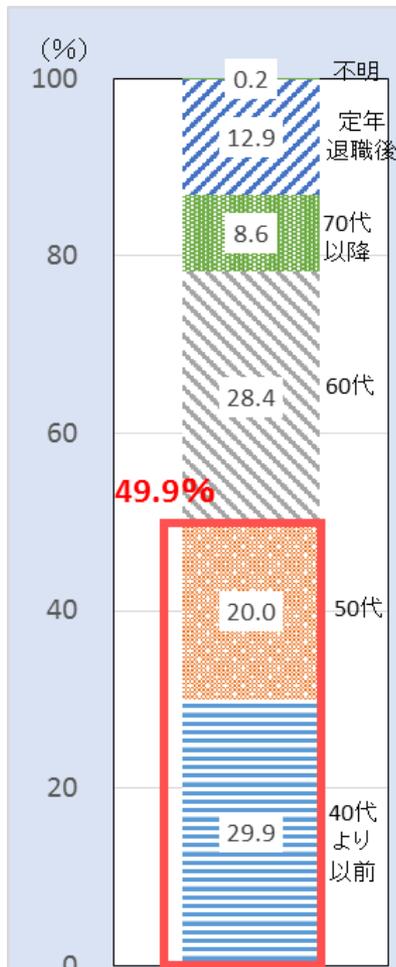
< 高齢者の就業・社会参加 >

社会的な活動を始めた時期は50代までが約半数

60代前からやっておけばよかったと思う事項では「ない」が最多。社会的な活動をしている人の方が、「健康維持のための食生活への配慮や、体力づくりのための運動をすること」や「知識・技能を習得すること」が多い

社会的な活動を始めた時期

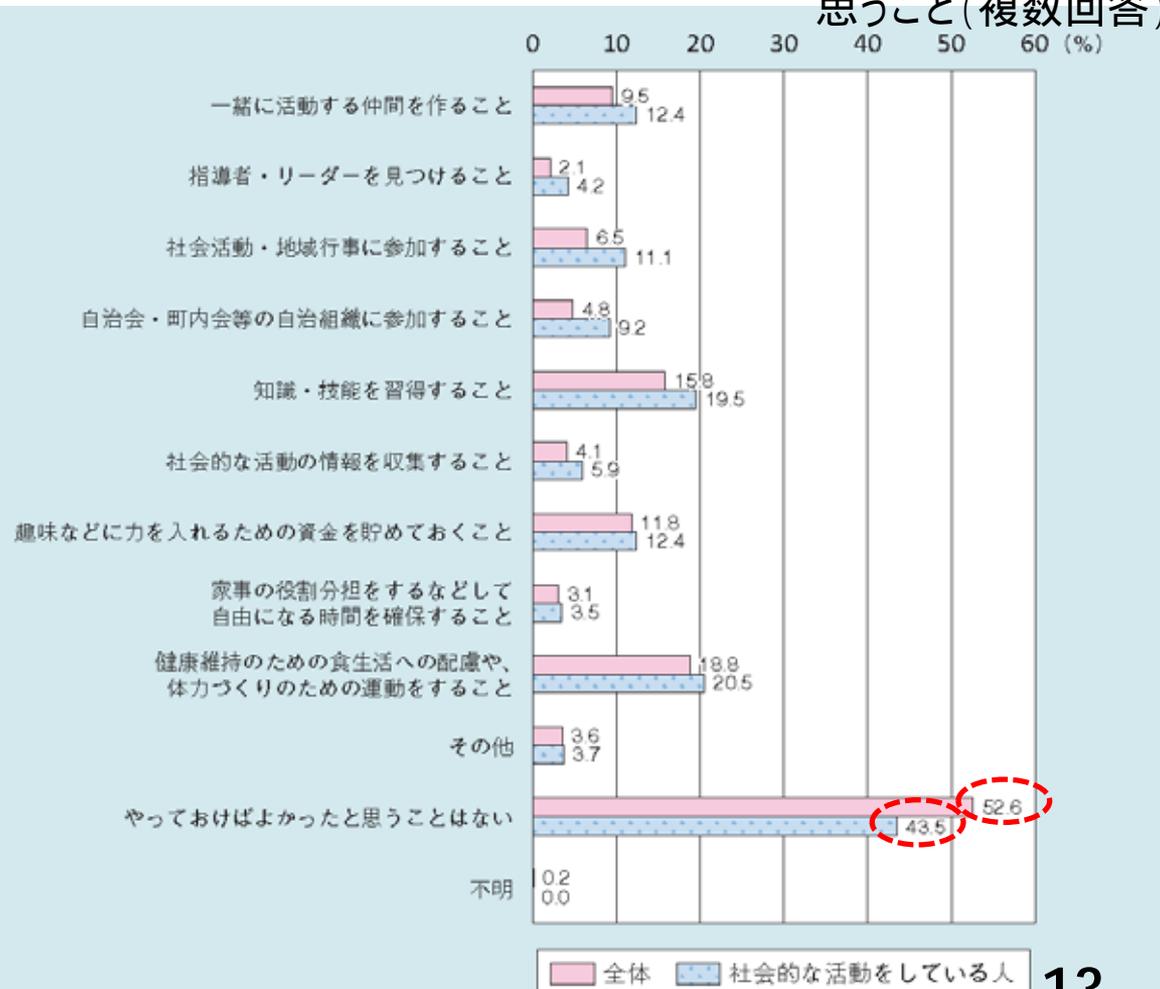
今よりもっと活躍するために60代前からやっておけばよかったと思うこと(複数回答)



資料:内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」(平成28年)

(注1)全国の60歳以上の男女個人が対象

(注2)回答条件は社会的な活動をしている者



資料:内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」(平成28年)

(注1)全国の60歳以上の男女個人が対象